

## 新たな生産方式へ

昭和48年(1973年)のオイルショックを境にして高度経済成長時代も終わりを告げ、低成長時代へと突入していった。我が社を取り巻く環境も、「売り手市場」から「買い手市場」へと転換した。今までは大ロット生産し、多くの在庫を持って利益を上げることができたが、お客様からの注文に「ジャストインタイム」で対応し、在庫を持たない体制でなければ利益を上げられなくなっていた。昭和57年(1982年)、トヨタかんぱん方式の創始者の一人が委員長として活動しているNPS研究会に参加し、これを我が社に合わせた形で取り入れ、CPS生産方式として活動を開始した。従来からの生産体制を180度転換させるものであり、新たな生産方式へ転換するのに約5年間の歳月を要したが、これによりお客様からの注文に合わせた生産が可能になり、我が社の新たな発展の基礎となったのである。

その後も厳しい荒波は何度も押し寄せ、製造原価を下げなければ利益が上がらないという状況に陥ったが、その度、全社員が知恵を出し合い、努力して難局を乗り越えたのである。

### 宇都宮工場の新設

ドルショック、オイルショックを経て昭和48年(1974年)、ガスケット材料から製品までの一貫生産工場として、又合理化、省力化を徹底した高生産性のモデル工場として新設した。従業員は36人であった。



生産機械の搬入



生産管理コントロール室



プレスライン